

(資料リスト)

ワコ-72-7 墓地 日本人墓石の関する諸資料リスト

(1984.4 松方 峰雄作成)

資料分類	資料番号	資料	備考
埋葬者に関する資料	A-1	松方 蘇介(正雄)の家系図	1985年 松方 峰雄調査作成
	A-2	松方 蘇介(正雄)の判明している略	同上
	A-3	日本人墓碑 八基の判明している事項	同上
墓碑の照会及びその関連資料(一九五八)	B-1	在ニ-3-7日本領事(田中三男)より松方三郎宛書簡	昭和33年10月12日付
	B-2	同上書簡に添付の墓地位置図と墓誌概略	1958.10.6 調査調査作成の HIDEO KITAYAMA と見合わせる。
	B-3	"PLAN TO REPAIR HEADSTONES ON 8 JAPANESE GRAVES HERE"	THE DAILY HOME NEWS (1958年1月11日) New Brunswick 地方紙
	B-4	同上	同上
	B-5	倒壊している墓石の写真	
	B-6	"市民が日本人の墓を修復" ニ-3-7 日系人会長 松岡正の挨拶	神戸新聞(昭和33年12月21日) 埋葬者の縁者による記載あり
	B-7	松方三郎より GEORGE F. SMITH 宛書簡	修復に対する礼状(1958年12月25日付) - JOHNSON & JOHNSON 社長
	B-8	松方三郎より CHESTER PAULUS 宛書簡	同上 New Brunswick 市長
	B-9	GEORGE F. SMITH より 松方三郎宛書簡	資料 B-7 に対する返礼
	B-10	CHESTER PAULUS より 松方三郎宛書簡	資料 B-8 に対する返礼
	B-11	現地、地図 (ロードマップ)	
墓地の清掃(一九六七)	C-1	CHARLES R. MEYERS より 松方三郎宛書簡	ワコ-71-737.75 地区ガバナー (1967年5月15日付)
	C-2	"ROTARY GIVES JAPANESE STUDENTS FIT RESTING PLACE"	THE SUNDAY HOME NEWS (1967年4月23日付) New Brunswick 地方紙
	C-3	ニ-3-7 日本領事(田中三男)より 松方三郎宛書簡	
	C-4	墓を清掃している ROTARY CLUB 会員の写真	
墓地に関する資料	D-1	一つの起原から	JAPAN NEW YORK 誌 Vol.9, No.19 (MAR/APR 1979)
	D-2	Rutgers 大学に使用している小幡甚三郎先生墓地の近況	石井隆著 三田評論(昭和53年8/9月号)
関する資料	E-1	FIRST STUDENTS JAPAN FOUND RUTGERS IN '66	NEWARK SUNDAY NEWS (1965年11月28日付)
	E-2	Rutgers 大学と経新の留学生	朝日新聞(昭和42年9月21日夕刊)
	E-3	郷愁の肺腑 - 死面列伝より	宮田謙二著(発行元等不明) 埋葬者身元等の記述あり
	E-4	幕末渡米留学生の日記(永井久一郎)	永井健著 JAPAN NEW YORK 誌 Vol.9, No.19 (MAR/APR 1979)

(注) 本資料リストは 1985年5月現在 松方家から所有している当墓地に関する記録を整理したものである。

アコ-グロ-ブ墓地・日本人墓碑に関する諸資料リスト

(1985.6 松方峰雄作成)

資料分類	資料番号	資料	備考
法要 墓地に 植樹 キャンペーン	F-1	幕木の官費留学生の墓に杉の木を	OCS NEWS 1980.11.17
	F-2	杉の木植樹"1年キャンペーン"を 実施せし 中尾道	The New York NICHIBEI 1980.11.06 掲載紙不明 (OCS NEWS?)
	F-3	杉の木植樹キャンペーンチラシ(1)	
	F-4	杉の木植樹キャンペーンチラシ(2)	
	F-5	日下部太郎らの"志"のふし 初のお金法要堂を日系人-ラ大関係者ら参列	NICHIBEI TIMES 1989.9.13.

* 以下は1985年6月以降入手の資料を順次記す。分類は極力A~Fにこの他を新設しない。

(1985.8 松方峰雄追加作成)

資料 追加	A-4	明治過去帳・物故人名辞典(川崎新次郎に ついでの記事あり)	東京美術 (鹿児島県列入午)
	A-5	岩倉大使と海外留学生 (松方蘇介に関する記事あり)	近代日本海外留学生史(上)渡辺実 講談社(鹿児島県列入午)

(1985.8 松方峰雄追加作成)

に 南 する 資料	G-1	阪谷芳直氏列の書簡	1980.7.15付
	G-2	阪谷達三略伝	阪谷芳直氏列作成 資料 G-1と共に送付された
	G-3	阪谷家家系図	資料G-1と共に送付された
	G-4	阪谷芳郎伝列 (阪谷達三に関する記事あり)	資料G-1と共に送付された

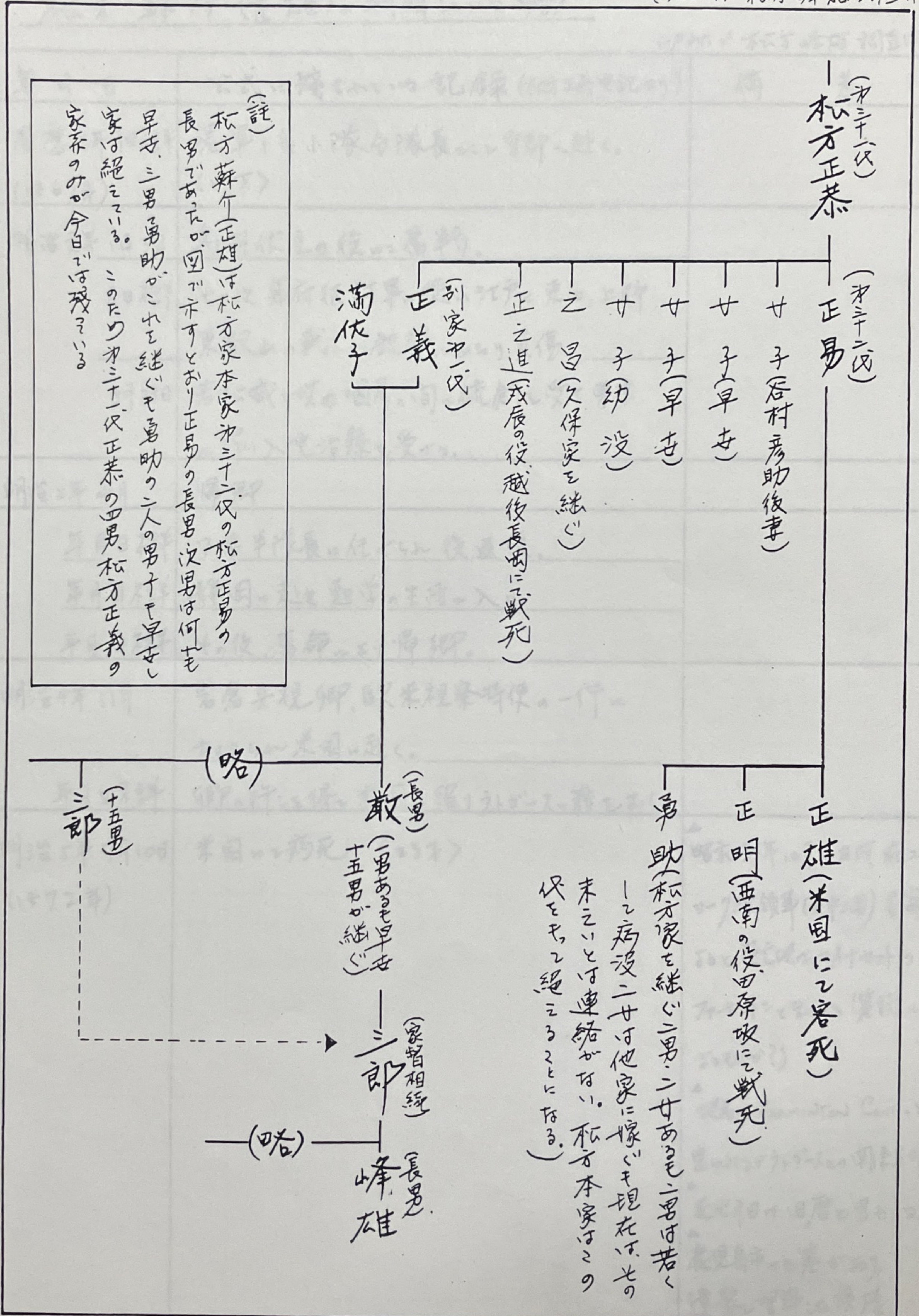
(1985.8 松方峰雄追加作成)

資料 追加	F-6	1985年盆法要プログラム	死サニレ"氏奉代"列送付された
	F-7	1985年盆法要 南連記事	NICHIBEI TIMES 1985.7.12. 死サニレ"氏奉代"列送付された

松方 蘇介 (正雄) の家系図

(資料 A-1)

(1984. 4. 松方 峰雄調査作成)



(註)
 松方正蘇介(正雄)は松方家本家カニ十二代、松方正易の長男であったが、四子不子とあり正易の長男、次男は何れも早夭、三男勇助がこれを継ぐも勇助の二人の男十も早夭し家は絶えている。このためカニ十二代正恭の四男、松方正義の家系のみが今日には残っている。

松方 蘇介(正雄)の判明している略歴

(1986、松方峰雄調査作成)

年 日 日	公式に残された記録 (松方議実記刊)	備 考
慶應3年月日不詳 (1867年)	薩軍1番小隊分隊長として京都へ赴く。 <17才>	
明治元年1月3日	鳥羽伏見の役に参加。	
年月日不詳	その役、幕府征討軍に従い、江戸、東上、上野、東叡山の戦い、銃弾に当たり負傷。	
8月23日	若松城を攻め、咽喉、肩、胸に銃創を受け東京に帰り入院治療を受ける。	
明治2年4月	帰郷	
年月日不詳	7番半隊長に任ぜられ後退任、	
年月日不詳	静岡へ赴き、勉学の生活に入る。	
年月日不詳	その役、藩命により帰郷。	
明治4年11月	岩倉具視卿、欧米視察特使の一行に参加し、米國へ赴く。	
年月日不詳	4卿の許に在りて米國に留り、トカースを籍を置く。	
明治5年7月10日 (1872年)	米國にて病死 <23才>	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 昭和33年10月20日付在米ニューヨーク総領事(田中三男)書簡より死亡地が「エズナカト」フーニントンとある(墓誌に「エズナカト」) ▲ 地名「FARMINGTON, Conn.」と思われるが「トカース」の別称不明。 ▲ 死亡月日は旧暦と思われる。 ▲ 鹿児島市に墓があり、遺髪を埋葬した模様。

ワシントンに日本人墓碑八基の考査判明の事項

(1986.5 松方崎雄調査作成)

埋葬者氏名	身元 / 埋葬者の縁者等	出身地, 縁者等が記述の諸資料
1 日下部 太郎 (1870. 3. 13)	身元判明済	福井出身
2 長谷川 雄郎 (1871. 11. 18)		姫路出身 姫路に墓あり。川崎市に縁者あり 横浜あり。(神戸新聞 昭和33.12.21) ニューヨーク州トロイの工科大学に学び埋葬 に参列した記録。当時の留学生永井久郎 の日記にあり。(幕末渡米留学生の日記 - 永井健氏著, JAPAN NEW YORK 誌 Vol. 9 No. 19 MAR/APR 1979)
3 松方 蘇介 (1872. 8. 13)	身元判明済	鹿児島出身
4 小幡 甚三郎 (1873. 1. 20)	身元判明済 (小幡徳三郎 慶應義塾元塾長 実弟)	小倉出身 大分県中津出身 (神戸新聞 昭和33年. 12. 21)
5 入江 音次郎 (1873. 3. 20)		長崎出身 (在ワシントンに墓あり) 比叡氏 著 にあり) *85.8 書簡10に引正。根拠は 明治42年(1909)の朝井外門の書簡。 「留学生 日下部太郎は死なず」の文中に 当該書簡あり。
6 阪谷 達三 (1886. 4. 14)	阪谷芳朗元蔵相(明治39~41) 東京市長(明治45~大正4) 専修 大学総長の実兄	岡山出身 (備中後月郡) (神戸新聞 昭和33.12.21) (死面列伝 - 郷愁の肺腑, 宮田謙二 著) (一つの起原から, JAPAN NEW YORK 誌 Vol. 9 No. 19 MAR/APR 1979)
7 川崎 新次郎 (1885. 3. 21)	川崎正蔵男爵(川崎造船所の 創設者)の三男	鹿児島出身 ニューヨークのホセフシーのイストン商業学校 「起立工務会社」ニューヨーク支店在勤中 26才に死亡(死面列伝 - 郷愁の肺腑 宮田謙二著) 神戸オリエンタルホテル元社長 川崎芳熊氏 (故人)の叔父 (神戸新聞 昭和33.12.21)
8 高木 すま (1877. 9. 05)	初代オランダ工領事(1873) 高木三郎の女児	山形出身(庄内藩) (死面列伝 - 郷愁の肺腑, 宮田謙二著) 高木三郎はニューヨークの領事として活躍 した。女児の名前は「すま」とあり。(幕末渡米 留学生の日記 - 永井健著, JAPAN NEW YORK 誌 Vol. 9, No. 19 MAR/APR. 1979) 高木三郎とすまの娘はよく知らない。(昭和33. 10.20付在ニューヨーク総領事書簡添付資料)